

令和6年度 スッキーニ 技術情報 No. 1

大船渡農業改良普及センター
電話：0192-27-9918
FAX：0192-27-9936

- ① 果実を守るためにわき芽かきを行いましょう。
- ② 生育段階に合った草勢管理を心掛けましょう。
- ③ 梅雨時期に備えて、定期的な病害虫防除を実施しましょう。

1 今後の栽培管理

(1) わき芽かき

定植後、1ヵ月程度で子葉の付け根からわき芽が発生し、放置すると奇形果が増えたり果実を傷つけたりするので、**5～10cm くらい伸びたら早期に摘除**します。

わき芽が発生しない場合は草勢が弱いと考えられるので追肥します。

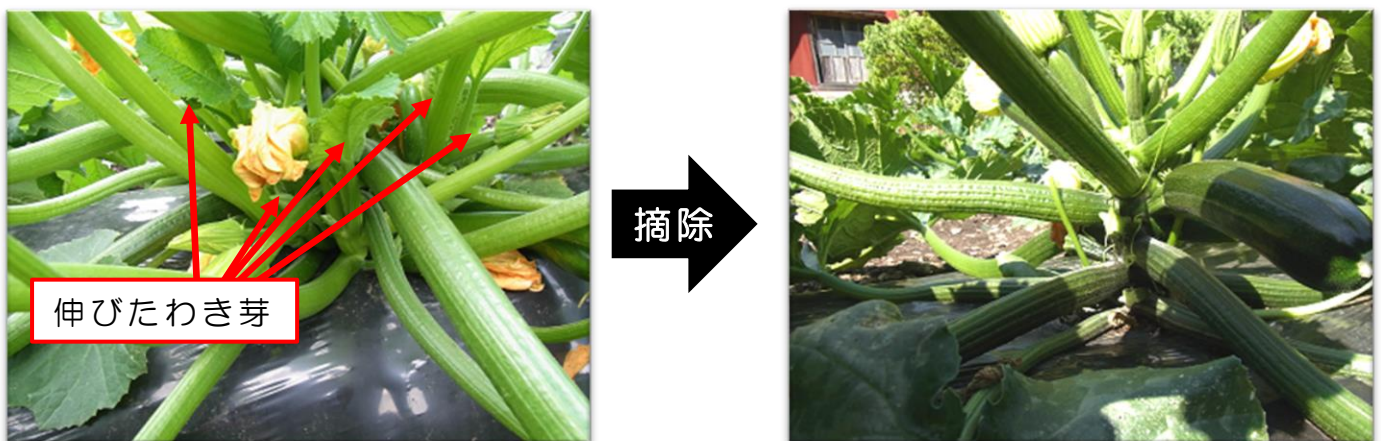


図 1 わき芽かきの仕方

(2) 摘果

開花初期は着果負担を軽くし、根を張らせて草勢を維持することで、後半の収量を確保します。

低温時は、雄花より雌花が先に開花するので授粉ができず、奇形果（流れ果、先細り等）になるので早めに摘果します。

(3) 追肥

定植 30 日後頃から開始し、**2 週間おきに窒素成分で 3 kg/10a** を目安に施用します。（野菜追肥 S535 の場合、20kg/10a）

果実の尻太りや蕾の曲がりや草勢低下の合図です。草勢が低下する前に追肥をしましょう。

(4) 授粉

早い作型では、開花時期が低温で蜂が飛ばないので、うまく着果しない場合があります。また、夏の高温（25℃以上）だと、花粉の生成量が減少し、不稔になることが多いです。その場合は、人工授粉を行うことで、奇形果の発生を抑えられます。



図 2 雄花の様子

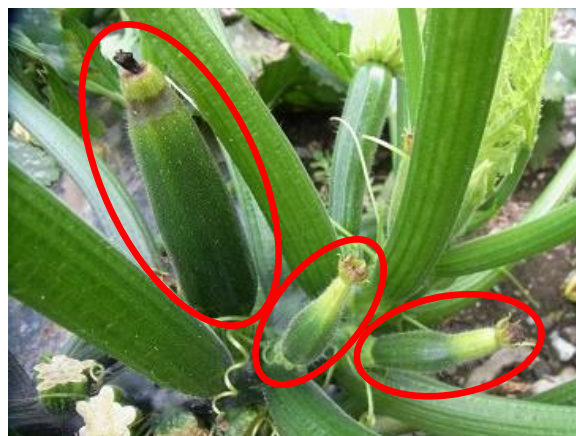


図 3 着果不良の果実

(5) 摘葉

古くなり黄色くなった葉や果実を覆っている葉は、摘葉します。摘葉時は、**葉柄を残し、葉のみ摘除することによって株の倒伏や腐敗を防止**することができます。

葉柄が上向きに伸びた葉は、雨水が入りやすく、病害発生の原因となるため、摘葉は控えます。



図 4 摘葉の仕方

2 今後注意したい病害虫

(1) アブラムシ類

若葉の裏側、蕾、花に発生し、吸汁加害します。**ウイルス病は、アブラムシ類によって媒介**され、生長点付近の若葉が黄色と緑の鮮やかなモザイク症状を呈します。

防除暦を参考にして、**生育初期から防除**を実施しましょう。また、ウイルス病の発病株は、直ちに除去、処分して、他株への感染拡大を防ぎましょう。



図5 葉裏に寄生したアブラムシ



図6 ウイルス病の罹病株

(2) ウリハムシ

自分の体を中心にして円を描くように葉を食害します。

防除暦を参考にして、アブラムシと同様の剤で防除しましょう。



図7 ウリハムシの成虫



図8 ウリハムシによる葉への食害

(3) 軟腐細菌病（腐敗）

主茎や果実が軟化腐敗し、腐敗した部分に白い菌泥が付着して悪臭を放ちます。

病原細菌は、**土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖**します。雨によってほ場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。

梅雨前の定期的な防除の徹底と圃場排水・草勢維持に努めましょう。また、罹病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。



図9 軟腐細菌病により腐敗した罹病株

(4) うどんこ病

最初は下葉に白い粉をまぶしたようなカビが発生し、のちに上位葉や茎にもみられるようになります。

高温乾燥や草勢低下によって発生しやすいので、草勢の維持に努めましょう。



図10 うどんこ病の病斑

★いわてアグリベンチャーネット

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★4月15日～6月15日は春の農作業安全月間

農業機械の基本操作を守り、無理のないスケジュールで作業を行いましょう。

令和6年度岩手県農作業安全スローガン「農作業 慣れと油断が 事故のもと」

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう！

★クマにご注意ください！

各地でクマによる人身被害が多発しています。農作業に当たっては、クマとの不意の遭遇に十分注意してください。